

日本共産党

川崎あつ子は ここからはじめます

「明るい東海」を発行し
村政、議会のことをおし
らせします。

こまりごと相談や、地域
に役立つために力いっば
いとりくみます。

みなさんの願いをよく聞
き議会でしっかり発言し
ます



お母さんがんばって

——長女・薫

家の中では、普通の人ですね。
福祉のこととか、政治のこととか
よく考えているし、そういうこと
でいつも忙しくしています。でも、
どんなに忙しくても、夜帰ったと
きに、ごはんをつくってくれたり
とか、しています。お母さんがん
ばって。

苦勞しながらも

明るくがんばる人

舟石川在住 大森登美子
障害をもったお子さんや、いろ
んな苦勞されているなかでも、い
つも明るく元気な人。まだまだ若
いので、ぜひ村議会でがんばって
いただきたいと思います。

日本共産党

村議選予定候補

川崎あつ子

だれもが安心して

暮らせる東海村を

明るい東海

2007年12月号外 発行/日本共産党東海村委員会
TEL 282-1016

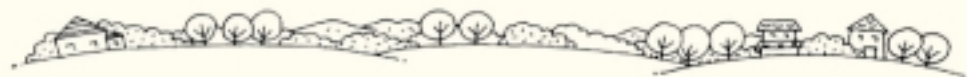
●日本共産党の政策をご紹介します。ご意見ご感想をお寄せ下さい。

ごあいさつ

お元気ですか。みなさんのくらしはいかがでしょう。

「税金が上がったと思ったら、今度は灯油」「負担ばかり増えて、もうやっ
ていけない」「孫の就職がたいへん」——こんな声がどこへいってもよ
せられます。介護保険料、医療費の値上げ、後期高齢者医療制度…不
安がつのるばかりです。お年よりも若者も、だれもが人間らしく安心
して暮らせるようにするのが自治体の仕事ではないでしょうか。

私は、党村委員長として議員団と一緒に「村民の利益第一」に、
みなさんのご要望を予算要求にまとめて届け、実績をつみあげてまいり
ました。みなさんのくらしを応援するために少しでも役に立ちたい、人
として生きる権利を守りたいという思いでいっぱいです。みなさんと力
をあわせて住みよい地域づくりや子どもたちのためにがんばります。





福祉・医療へのあつい思い

川崎あつ子さんに聞きました

●政治に関わるきっかけは 兄の選挙

——川崎あつ子さんは、これまで県議選、衆院選で候補者として活動し、今回、村議会をめざしますが、どういうきっかけで政治に関わるようになったんですか。

あつ子 これまでのみなさまのご支援、ご協力に、心からお礼を申し上げます。私は十王町の生まれですが、兄が共産党の町議会選挙に立候補しました。そのときに応援に来た人（後の夫）から共産党の話を聞きそれがきっかけで入党しました。23歳のときでした。以前から、兄の本を時々読んでいて、「苦勞している、弱い立場にある人のために、いっしょうけんめいにやる政党なんだな」と思っていました。

●力をあわせて願い実現を

——これまでどんな活動をしてきましたか？

あつ子 娘たちが通っていた県立盲学校では、PTA会長、親の会会長をつとめ、「どんな重い障害のある子にも教育の保障を、自立生活の保障を」と、父母や先生方と力を合わせて幼稚部の設置や入所施設の拡充を実現させてきました。

村内においては、党村委員長として、議員団と一緒に、「村民の利益第一」をもとめてみなさんのご要望を毎年予算要求にまとめ届け

てまいりました。水道料金の値上げ幅を抑えることや、就学前医療費の無料化の所得制限撤廃（来年度からは小学校卒業まで）、障害者自立支援応益負担1割負担への村独自助成制度などの実現を勝ちとってきました。



05年5月、「障害者自立支援法を考えるみんなのフォーラム」に参加。（後列中央が川崎あつ子さん）自作のタペストリーでアピール

●“自分の経験が 人の役にたつのなら”

——そんな川崎あつ子さんが、立候補するきっかけになったのは？

あつ子 最初に県議選の話があったときに、党から「あなたのそういう経験を、政治をよくするために生かしてほしい」といわれました。「私の経験が他の人の役にたつのなら」、また、共産党は「どんな重い障害があっても人間なんだ」ということ、私自身それに支えられてきましたから、その期待にもこたえたいと思いました。

——これから、一番やりたいことは？

あつ子 やっぱ、福祉、医療問題です。これまでの経験をすべて生かして、お年寄りも、若者も、子どもたちも、障害のある人も、だれもが安心して暮らせる東海村にしていきたいと思っています。

みなさんからの相談ごとに、いつでもこたえるのが議員だと思っています。私の子どもたちは多くのみなさんの支えをいただきながら、かなり手が離れました。おかげさまで、この子たちからは元気をもらっています。これからは、みなさんのくらしを応援するために、これまでの経験を生かして、少しでもお役にたちたいと思います。なによりも「人のために尽くす」のが共産党ですから、人として生きる権利を守りたいという思いを胸に、先輩議員に学びながらがんばります。